

# 桜萩会だより

第18号

宮崎県立小林中学校  
# 小林高等女学校  
# 小林高等学校  
関東地区同窓会  
編集兼発行人  
永崎秀一郎  
事務局  
136 東京都江東区  
南砂2-3-8-930  
石渡方  
☎ 03(3615)1795  
平成3年5月7日発行

## 桜萩会総会に当って

桜萩会会長 瀬戸山孝一 (旧中十一回卒)

第十五回桜萩会が終わったと思っ  
たら、はや第十六回の総会を迎えるこ  
とになりました。  
年々々々とは云うものの日々の過  
ぎ行くことの早さに驚いておるもの  
です。第十二回の総会で、会長に選  
任されて丁度四年目となります。色  
づつとあります。政界ではリ  
ート事件の影響で交代が早  
まり、国際的には天安門事件、ソ連の  
ペレストロイカ、そして東欧の民主  
化、その上に湾岸戦争と矢継ぎ早や  
に変化して来ております。世界的な  
世の変遷に較べて日本の世の穏やか  
なことを考えますと、吾国は誠に平  
和で良い国だと思わざるを得  
ません。一國平和主義と言葉  
が走り出している様ですが、この言  
葉の持つ意味をよく考えてみたいも  
のです。この言葉の使い方によつて  
は、せつと四十年で日本の国民  
が築きあげてきた、この平和な吾が  
祖国が少しづつ昔に帰ってゆく虞れ  
が生じて来る危険性があります。こ  
の問題も、年頭の雑感で述べました  
愛国心とはこのことと関連がありそ  
うな気が致します。  
今年も亦、新卒の後輩達が社会に  
進学にと新しい道にはいり始めま  
した。五月病と言われましたが今の  
人達にはこの様な症候群はないかと  
思います。六月の第一土曜の桜萩  
祭りに、こんな若い人達が大量出  
席して戴きたいものです。そして時  
間は短いかも知れませんが若者女  
大いに話し合いたいものです。その  
中から私達が世代の相異で判らな  
かった種々の事柄が理解出来る様にな  
るのではないのでしょうか。桜萩祭  
りの場もある面では堅い部分もあつて  
も良いのではないかと思っております。  
す。何はともあれ、今年も幹事諸兄  
が頑張っております。  
みんな揃って桜萩祭りに集いまし  
よう。

## 平成4年度 宮崎全国総体をめざして

小林高校女子バスケットボール部  
監督 北郷純一郎

女子バスケットボール部にとつて  
平成2年度は平成4年度宮崎総体を  
めざすホップ・ステップ・ジャンプ  
の年でありました。  
成績は全国高校総体3位、全国選  
抜4位という昭和54年以来的好成績  
でありました。  
卒業式は3月1日に行なわれ、主  
役を演じた3年生11名は一人の落後  
者もなく無事、巣立っていきました。  
また、バスケット部恒例の送別会も  
盛大に行なわれ、送る者、送られる  
者全てが感動と感謝の中にそれぞれ  
の進路に向けて力強く出発してい  
きました。  
感傷にひたる間もなく、早20日ば  
かりが過ぎようとしています。既  
にステップの年になる平成3年のチ  
ーム作りは始まっています。  
3・4月の春季遠征強化合宿、南  
九州大会・5・6月の実業団合同練  
習会、県高校総体、九州大会・7・  
8月の遠征調整合宿、全国高校総体、  
10月の国体・11・12月の選抜大会  
県予選・全国高校選抜大会と目押

## 新任御挨拶

小林高等女学校長  
南崎和良

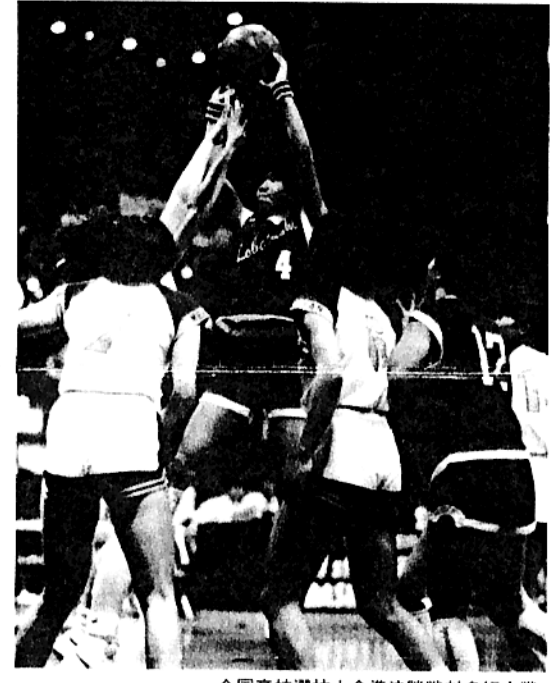


霧島の山々も、すっかり春の姿に  
なり、若葉の萌え出る季節となつて  
参りました。学校も、四月十日には  
普通科三十三名、家政科四十四名の  
新入生を迎え、新しい学年のスタ  
ートを切りました。  
本年度の教職員の定期異動により、  
高妻校長が定年退職され、不肖、南  
崎和良が後任として過日着任いたし  
ました。高妻前校長同様にご指導、  
ご鞭撻を賜りますよう、お願い申  
上げます。私は、昭和五十年から  
十五年間、小林高校に勤務し、うち  
五年間は、吉田校長、川畑校長、高  
皆様の御指導はチームにとりまして  
何物にもかえがたい励みになりました。  
毎年の出場を誓ひ、練習  
に精進する覚悟でいますので、今後  
とも、皆様方の多数の御指導をよ  
しくお願い申し上げます。  
現在小林高校は、在校生一二七二  
名(野尻分校、園芸科が生徒数の減  
少に伴い、本年から募集停止になり  
ました)を擁する、県下有数の進学  
校として又、駅伝部、陸上競技部女  
子バスケットボール部を中心に各部  
とも、よく活躍し、名実ともに文武  
両道の学校として、校運ますます隆  
昌に向つています。

## 汗まみれの「旋風」

中島祥行 (高十五回卒)

女子バスケット全国大会の案内が、  
例年の全国高校駅伝の案内と一緒に  
送られて来たのは12月の中頃だった。  
2、3日して、桜萩会幹事長から、旋  
風のご挨拶はチームにとりまして  
何物にもかえがたい励みになりました。  
毎年の出場を誓ひ、練習  
に精進する覚悟でいますので、今後  
とも、皆様方の多数の御指導をよ  
しくお願い申し上げます。  
8月3日の事だった。  
仙台へ出張し、午前中で仕事を終  
えた私は、帰京しようとして仙台駅に戻  
った。構内に「高校総体」と大きく  
書いたボードが立ててあり、朝、何  
もなかったスペースが一変していて  
私を驚かせた。「もしや?」という期  
待で受付を訪ねると、女子バスケッ  
トの表に「小林(宮崎)とあった。  
全国大会を応援した3日間(3日  
だけ応援出来た)は、まるで、別世  
界に入ったようだった。師走も押し  
迫っていて、会社のスタッフは気ぜ  
わしく働いていた。そんな雰囲気か  
ら離れた数時間は、まるでエアポ  
ケットにでも入った様だった。「隔  
世の感」とはこんな事をいうのだろ  
うか。スピード、ショットの正確さ、  
闘志、身長、私の高校時代の男子バ  
スケットの比ではない。  
応援席は、田舎の一部が引越し  
て来たようだ。「キバレー」「アセン  
ナー」、なまりの固まった声援が飛ぶ。  
選手たちははたすらベストを尽くし、  
監督は、彼女らの持てる力を目一杯  
引きだそうとしていた。  
応援席は、親御さん、先生、監督  
の友人、先輩達が思い思いの気持ち  
で声をかける。名短大付属(優勝)と  
の準決勝が終わった時、手にした「旋  
風」は汗でぐちゃぐちゃだった。  
「感激をありがとう。感動をあり  
がとう」



全国高校選抜大会準決勝戦対名短大戦

## 桜と萩の二度咲き

志鶴正幸 (高七回卒)

中小企業金融公庫を五十歳で円満  
退職し、経営コンサルタントとして  
独立してから、四年たちました。  
現在、事務所長のほか、産能大学  
事業本部講師、国や都・県のカタ  
イザー(異業種交流活動の世話役・  
まとめ役)などを兼務しております。  
講演、講義、管理者研修、新製品開発  
・事業化、戦略的生産管理システム  
の構築指導などに従事しています。  
自己紹介の際、私は出身地「小林」  
を、相手の年配にあわせて、「紀元節  
の高千穂峰の麓」「新婚旅行のメッカ  
えびの高原の麓」「全国高校駅伝大会  
で七回優勝」などと使い分けていま  
す。  
ところで、私の在学中、小林高校  
は西諸地区唯一の最高学府でしたの  
で、「西諸大学」と呼ばれていました。  
そこで、旧制中・高女・高校の三  
校歌の冒頭句を連結して、我等が母  
校の校歌を再編してみました。  
私は、これに、新旧の同窓が結束  
するすばらしさを感じます。  
「西諸大学 戀校歌(混濁歌)」  
朝日ひたさす国にして  
紫匂ふ春の峰  
霧島の山麓はひろく  
我等が母校 西諸大学  
さて、今年もまた桜萩会の総会が  
迫ってきました。みなさん、積極的  
に参加して、関東地区同窓会の結束  
をはかりましょう。  
おわりに、桜萩会の盛會(桜と萩  
が更に六月にも咲く、盛花の意)を  
祈念して、私の気持ちを文学的に表  
現させていただきます。  
《和歌》  
六月の 第一土曜に 集い会う  
桜萩会に 永久に栄あれ  
《俳句》  
水無月に 返り咲くらむ 桜萩  
《狂歌》  
欧州は 来年統合 めざすのに  
桜萩会の 結束いかが  
《川柳》  
杯の 応酬成るか 桜萩会  
以上



小林高校正門前

## 桜萩会6月祭に参加しましょう

<p>宮崎県知事 松形 祐堯 (旧中十回)</p>	<p>瀬戸山孝一 (旧中十一回)</p>	<p>橋口和人 (高一回)</p>	<p>代表取締役 西田忠司 (高五回)</p>	<p>代表取締役 戸高松栄 (高三回)</p>
-----------------------------------	--------------------------	-----------------------	-----------------------------	-----------------------------

〒114 東京都大田区東横谷五十一一七  
電話 (03)3745-1641

〒140 立川市砂川町七丁目四九番地七  
電話 (04)2537-6971  
FAX (04)2537-0780  
桜萩会価格設定

〒100 三鷹市下連雀一-二二-13  
電話 (04)233-4873-365

〒100 東京都葛飾区白鳥一-11-14  
電話 (03)3691-6153

〒100 東京都葛飾区白鳥一-11-14  
電話 (03)3691-6153

〒100 東京都葛飾区白鳥一-11-14  
電話 (03)3691-6153

# 第十六回桜萩会祭りに御協力を

幹事長 永崎秀一郎(高四回卒)

新緑が眼にしみる頃ともなれば、待望の桜萩祭りの季節が訪れます。願わくば数多くの会員皆様の御参加により盛大な祭りになるように、今年も第九回卒の皆様が当幹事として御苦勞されております。新しい企画に工夫をこらし、皆様に御満足頂けるよう準備中です。どうか御期待下さい。どんな立派な企画であっても参加者が少なれば意味がありません。いつも言う通り主役は会員皆様です。卒年幹事を中心に声をかけ合って御参加頂くようお願いするものです。

さて桜萩会も満足以来二十年近く経過し、会員数も一三〇〇名を越す大世帯になっております。今年も新社人となられた後輩を温かく迎へたいと思います。先般後輩が共に助け合って行く同窓会が、桜萩会本来の在り方だと思います。その役割

## 森永さんの思い出

大坪彪一郎(高八回卒)

昭和三十年夏、高校三年の夏休みを利用して、私と平部頼達君(現三菱重工)の二人で東京の子備校に通う為、上京しました。当時は、下宿も少なく、泊る所に苦労したのですが、私の下宿先は、の鍋屋横丁の風呂屋の前で、農林省に勤めている近藤さんという家でした。ある日、子備校から帰って来たら、宿の奥さんが大変恐縮していらしたので、どうしたのか聞いたら、森永さんの奥様が挨拶に来られたのだという。当時、森永さんは大蔵省の主計局長で、役人の奥さんから見れば、どれ程偉い人の奥様が良く判る訳です。その日から、とたんに待遇が変わって、ご馳走が出るようになり、田舎の父からの指示で、私の姉を大蔵省に採用してもらおうと森永さんにお願いしました。父が小林市役所に勤めていた頃、陳情の為、年中、大蔵省に出掛けていたのですが、森永さんは余りに偉くなりすぎていたので、省内に誰か居れば、気軽に関係部署を紹介してもらえらるので、取り合えず娘でも入省させるより仕方あるまいという父の

## 総会当番幹事よりのメッセージ

有坂久美子(旧姓 後藤)

最後に皆様の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます。今年度の桜萩会、我々九回卒が皆様の御世話をお願いいたします。秋談がはずむ様な雰囲気作りを心がけております。今までご出席頂いた方はもちろん、お知り合をお誘いしてお出かけ下さい。初めての方、若い方、是非ご出席をお待ちしております。年代、職業が違っても素晴らしい人の輪が広がりますよ。名札に九回卒と記してありますので、お声をかけて下さい。パートナをお探しします。参加して楽しかったな、よかったですな、きつとそうなります様に。

桜萩会より同窓生の皆様へあれから一年、しばらくお目にかかっていませんがその後如何お過ごしでしょうか。私は今年十六才になりました。名前「桜萩会」六月八日があると言って大笑していたそうです。ある時、果の親睦団体に一金会というのがあり、森永さんが講師で東南アジア帰国報告がありました。友人の柞木貞則君(現東京急を伴って話を聞きに行き、帰る途中で、森永さんと呼び止めて、柞木君の嫁さんを探してもらった様に頼みました。森永さんはメモ帳を取り出し、二三の要点を書き込んで、探してみよう、と帰られました。それから数日後、森永夫人より連絡があり、ミス小林で才媛の女性を紹介していただきました。現在の柞木夫人は、その時の女性である事は申すまでもありません。日銀総裁を辞められてしばらく経った頃、私は三和銀行の寺田副頭取を紹介してもらったので、駒込の森永邸を訪ねました。用件を聞いて、しばらく考えておられた様ですが、それはどうしよう、と申されました。初めは出陣の瀬戸山孝一さん(当会会長で当時地銀協会副会長)を紹介し、瀬戸山さんから寺田副頭取を紹介してもらった様に頼んでみよう、という事でした。日銀総裁という金融界の大御所を直接大蔵省のト書きを書いた森永さんが直接紹介状を書く事は、相手の事を考えて、遠慮しなければならぬという森永さんの気がかりでした。節目を通し、心の優しい大先輩でありました。遠い日の森永さんを思い出して、いつの日か霧島山が見える処に、森永さん

## 「伊東塚」

原田経紀(旧中十九回卒)

いま、私の手許に一枚のコピーがある。先年、小林に帰省した折、小林高校の周辺をぶらつき、すぐ裏の伊東塚まで足を伸ばしてみた。亭々と聳えていた伊東の老松は既になく、新しい墓が展開していたが、苦むした伊東塚だけは昔のまま、だった。石硬の、後の今を視る今の昔を視るにひとし。の文書は、中学時代しばらく訪ねた筈の私にも、始めて接する思いのものだった。妙に、それは私の心を惹いた。後に、その全文を知りたく、蘭田かお子さん(高四回)に頼んだところ、折返しに、小林史記の抜萃を送って来てくれたのが、このコピーである。元龜三年(一五七二)五月四日、島津・伊東兩軍の飯野木崎原合戦における伊東方の主だった戦死者を葬った伊東塚が建てられた。当初は相場の墓があったようだが、永い年月の経過は名だたる者数基を現存するのみである。文化十四年、時の小林地頭、市田

## 八十四歳を迎えて

丸岡真幸(旧中一回卒)

「生くることややくやく老の春」富安風生 風生七十九歳の句、千葉鴨川に句碑が建てられています。九十五歳で亡くなる迄好きな多くの名句を残しています。この句は今の私の心情を余すところなく、明るい勇気と青春の喜びすら奮い起して呉れます。九十五歳の辞世の句もありますが、ひよつとすると九十五歳までなどとは、ぼのとした昨日今日です。私の句をとの事面映いながら最近のものを探しました。『駒草や高嶺がレ場の吹きさらし』 優美可憐、つ、まじやかに頭を垂れたピンクの花、風吹けばすくすくにも折れて仕舞いそうなの細い茎と葉、ガレ場は石ころばかりの所、高山の厳しい風に吹きさらされ、この悪条件に耐えてこそこの真の強さと美しさが生れたものと信じています。駒草を外山先生に見たて、差上げた句です。『襟に手をそよ風入る洗ひ髪』 昨五月上湯にて『春の陽にあこの産毛の透けて見ゆ』 箱間なる山毛櫛も挿頭すや藤の花』 昨・五月 梓川溪谷

## 会計報告

左記の通り報告致します

収入の部		支出の部	
年会費	365,000円	総会開催費	712,713円
寄附金	230,000	幹事会費	164,771
総会費	630,000	会報発行費	417,772
広告費	100,000	通信費	20,100
利息	70,775	寄附金及び謝礼記念品	106,200
前期より繰越	686,580	振込手数料	2,677
		交通費	25,000
		ソフトボール大会費用	39,849
		小林高校女子バスケットボール大会費用	22,525
		名簿リスト入力代	16,686
		次繰越金	554,062
合計	2,082,355円	合計	2,082,355円

## 編集後記

庭先の木々や街路樹が一斉に芽を吹き若葉へと衣替えを始めました。世の中が騒然とし自然環境の危機が叫ばれています。季節の移り変わりにはさほどの影響もなく自然の偉大さが感じられます。桜萩会便り第十八号をお届けしますが、原稿をお寄せ頂いた皆様に感謝しますと共に、広告への御協力に御礼申し上げます。有難うございました。また会報発刊が、第十六回桜萩祭りにお役に立てれば幸いです。創刊二十号記念号に向けて頑張りたいと思いますので、今後とも多方面にわたる皆様方からの寄稿をお待ちしています。最後に皆様の御健康と御多幸をお祈り致します。編集担当 永崎秀一郎(高四回) 石渡浩子(旧女二十一回)

ようしまし参加に6月会萩桜

<p>一級建築士事務所 株式会社サン設計事務所 代表取締役 山口和彦 (高一回)</p> <p>〒130 東京都中央区日本橋馬喰町 一七七一三 岡永ビル 電話 (〇三三) 三六六一〇八六一</p>	<p>土地と住まいは 前建設株式会社 代表取締役 前村洋 (高五回)</p> <p>〒194 東京都町田市鶴川 二二一三三 不動産部 〇四二七三 三四二〇三 建築部 〇四二七三 三四二〇三</p>	<p>宮崎県の若人たちによる 株式会社 エム・エレクトク 代表取締役 山下光正 (高五回)</p> <p>本社 東京都中央区八重洲 〒104 東京都中央区八重洲 電話 (〇三三) 三三三二一 四四〇〇 宮崎工場 宮崎県東諸県郡高岡町二七一 電話 (〇九八五) 八二一三三三</p>	<p>株式会社日高設計企画 代表取締役 日高省三 (高二回)</p> <p>一級建築士宅地建物取引主任者 〒166 東京都杉並区高円寺北 電話 (〇三三) 三三三三三 〇一四四〇五 FAX (〇三三) 三三三三三 九二八二五</p>	<p>株式会社恒陽 代表取締役 大坪彪一郎 (高八回)</p> <p>本社 東京都新宿区百人町 一三三三三 電話 (〇三三) 三三三三三 二七一一</p>
--	--	--	--	---